



不妊患者に対するプレコンセプションケア

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD学会 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 俵, 史子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003968

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<ワークショップ>

不妊患者に対するプレコンセプションケア

俵 IVF クリニック

俵 史子

目的：妊娠を希望する女性における適切な体重管理は、妊娠率や生産率の向上に加え妊娠合併症の予防にも寄与することが知られている。痩せと肥満女性の ART 妊娠後の周産期予後について検討を行った。

方法：2015 年 1 月から 2021 年 4 月に不妊を主訴に受診した 5080 人の初診患者における痩せ (BMI18.5 未満) と肥満 (BMI25 以上) の頻度を評価した。このうち凍結融解胚移植での妊娠成立者を対象に分娩施設へ調査票を送付、得られた回答をもとに周産期予後との関連性を調べた。

結果：調査票回収率は 99%であった。初診時、痩せ 15.5%、標準 72.9%、肥満 11.6%であった。帝王切開率は痩せ 26.6%、標準 27.7%、肥満 42.5%と肥満で有意に高く ($P=0.003$)、早産率は痩せ 6.6%、標準 1.9%、肥満 4.9%と痩せにおいて有意に高かった ($P=0.03$)。また妊娠高血圧症候群は痩せ 11.0%、標準 6.0%、肥満 8.3%、前期破水は痩せ 18.1%、標準体重 11.5%、肥満 11.0%とそれぞれ痩せで高い傾向を認めた ($P=0.05$)。PCOS (多嚢胞性卵巣症候群) 患者に限定したサブ解析を行った。不妊原因のない女性に比し痩せおよび肥満が多い傾向を認めた (痩せ：対照 13.5% vs PCOS 18.5%, $p=0.015$ 、肥満：11.0% vs 14.3%, $p=0.084$)。指導により痩せと肥満者の約 2 割で半年間に 5%の増量もしくは減量に成功している。当院における PCOS 患者の妊娠率、流産率、妊娠合併症頻度は不妊原因がない患者に比べ有意差を認めていない。

考察：不妊患者における痩せ及び肥満と妊娠成立後の周産期予後との関連性が認められた。近年 PCOS 女性の高アンドロゲン状態によるエピジェネティック変化による児への影響も指摘されており、拳児を希望する女性への適切な体重管理は不妊、周産期予後のみならず、次世代への観点からも重要である。